

飲酒運転根絶への

灯をともし、共に素敵な生き方を —



# TOMOS

と も す

Vol.27

年3回発行(次号は5月25日)

エフエム福岡

ラジオパーソナリティ

## 愛智望美さん

海の中道大橋から20年

### 私たちは「生かされている」

TOPICS in 沖縄

飲酒運転ゼロを目指す地域研修



TOMOS vol.27

2026年1月25日

発行/NPO法人 はあとスペース

〒813-0032 福岡県福岡市東区土井2-34-16

お問い合わせ/ ☎ 092-692-6316



美と健康の「新しい」で、  
笑顔あふれる毎日をつくる。

Beyond innovation,  
for a beautiful smile!

新日本製薬はこれまで、  
人々の心豊かな暮らしを願い、  
常識にとらわれない発想で、  
美と健康の「新しい」を届けてきました。  
これからも、  
世界中のひとりでも多くの方が、  
幸せや感動に満ちた  
笑顔あふれる毎日を過ごせるよう  
新日本製薬は、  
お客さま一人ひとりの声を大切に  
美と健康の「新しい」を届け続けます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちは、持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

 新日本製薬



# 飲酒運転ゼロは私の使命

FM FUKUOKA  
アナウンサー 愛智望美さん

【あいち・のぞみ】 2017年、エフエム福岡に入社。ラジオパーソナリティとして多くの番組に出演。イベントMC、CMナレーション等も務める。2011年、粕屋町での飲酒運転事故によって同級生の山本寛大さんを亡くし、飲酒運転ゼロを広く訴え続けている。

夢を語り合った親友——  
今でも変わらない友情

小学生の頃から「アナウンサーになりたい」って思っていました。中学生の頃は放送部に所属していましたし、とにかく「しゃべる」ことが好きでしたね。

生放送で初めてニュースを読むことを俗に「初鳴き」と言いますが、入社後私の「初鳴き」の日が、なんと二月九日（寛大さんの命日）だったんですよ！きつと寛大も応援してくれているんだろなって感じました。

寛大とは中学一年の時に同じクラスになってから、ずっと親友でした。将来の夢を語り合ったことも懐かしいですね。

「アナウンサーになる」——寛大に自分の夢を宣言して、そのとおりの仕事をさせてもらっていることに感謝は尽きません。

命日には毎年、仲の良かった同級生たちが、みんな集まらんです。彼が、みんなを集めてくれているんだと思います。

飲酒運転はしないで！

言い続けることが私の使命

飲酒運転はしないで！大切な命をもっと大切に——それを言い続けていくこと、ラジオの電波を通じて、社会へ訴え続けていくことが、私の「使命」だと感じています。

私の使命のそばには、多くのリスナーや、同級生たちや、お世話になった方たちが常に寄り添ってくれている——このことは、私にとって大きな「支え」です。本当に感謝しています。

その感謝の気持ちを「声」にして、あらためて言わせていただきます。

「飲酒運転は絶対にしないでください」私の心からお願いします。



「飲酒運転ゼロ！」が、私たちの合言葉です！

ラジオドラマ

「果たせぬ、あの頃の夢は」

二〇二二年二月二十七日、エフエム福岡のラジオドラマ「果たせぬ、あの頃の夢は」が放送されました。

福岡県の飲酒運転撲滅キャンペーンの一貫として、エフエム福岡が制作した画期的な番組でした。映像のないドラマなので、脚本家との打ち合わせを何度も重ねる中で、声の演出などにも気を配りながら、丁寧に作り上げていったんです。

「本当に伝わるだろうか？」——そんな葛藤は、常に付きまといました。

でも、放送から四年たった今でも、「私も聞きましたよ」って言うってくれるリスナーさんたちもいて、本当に「やって良かった」って思っています。また再放送したいですね。

制作当時は、いわゆる「コロナ禍」の真只中だったので、本当に苦労しました。本来なら、出演者一同が会って行なう「本読み」や「収録」も、リモートでしか

対応できなかったもので、とにかく大変でしたね。でも、出演者もスタッフも、みんなの想いは「ひとつ」でした。

大変だったからこそ、あそこまで「ひとつ」になることができたんだと思う。どんなに困難でも、飲酒運転は絶対に無くすんだ！——という心は、みんな同じでしたね。

私自身、ラジオドラマをつくるのも、出演するのも、まったく初めての経験だったので、とても勉強になりました。自分の実体験を基にドラマを制作させてもらえることって、なかなかないので、素晴らしい経験になりましたね。

それにも増して、リスナーさんからの「良かった」っていう声が、とにかくすごかったですよ。それはもう、私の想像以上でした。

当時すでに私は、飲酒運転について番組内でも話をしていたので、「愛智さんのお友だちだったんですね、初めて知りました」というメールを、本当にたくさん戴きました。

いちばん励みになったのは、「大切な友人を亡くした経験を持つあなただからこそ、飲酒運転撲滅を発信し続ける意味があるんだね」

——というリスナーさんからの声でした。

普段は番組へメールを送ったりすることのないサイレントリスナーの方でも、「初めてメールします。ラジオドラマを聴いて、どうしても感想を伝えたくて——」って言うてくださる方も多かったですね。

同級生たちからの声にも励まされました。「愛智だからこそ出来た、最高の番組だったよ、すごいね」って。みんなに支えてもらっていることを実感したし、もしかすると、いちばん支えてくれていたのは、寛大だったのかもしれない——。

実は、みんなが「飲酒運転ゼロ」の主体者なんです。私はラジオ局にいて、発信できる立場にいるから、それができているだけ。私は、みんなのおかげでここにいないようにしています。

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

(順不同)

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

(順不同)

沖縄県では、全人身事故に占めるアルコール（飲酒）関連の比率が高く、県内の飲酒運転を取り巻く情勢は極めて厳しい状況です。飲酒運転に起因する飲酒マナーの問題、依存症に対する認知度の向上や学習の機会を創出していくことは、喫緊の課題です。

深刻な問題である「飲酒運転」について、その予防力を高めることを目的とし、昨年十月から十二月の三ヶ月間、「飲酒運転ゼロを目指す地域研修」が沖縄県浦添市で開催されました。

## 「支えている」ようできて 実は、「支えられている」。

〈飲酒運転ゼロを目指す地域研修〉主催  
依存症リカバリー  
サークル 代表 **仲田 翔太さん**



【なかだ・しょうた】 2024年、依存症リカバリーサークルを設立。アルコール・薬物・ギャンブルなど、あらゆる対象に対応し、依存症当事者と家族に寄り添い続けている。自身もアルコール依存症で苦しんだ経験を持ち、WEBプログラマーの本業の傍ら、ボランティアで支援に取り組んでいる。



対談する大田房子さん(左)と、杉本哲也社長(右)。  
※アルコールインターロックとは、運転前にドライパーの呼気を測定し、アルコールを検知した場合には車のエンジン始動を物理的に阻止する装置。

主催は、依存症リカバリーサークル代表、仲田翔太さん。沖縄県地域振興協会と浦添市の後援を得て、当日は依存症当事者や、ご家族も体験談を語って下さいました。講師には、ASK飲酒運転防止上級インストラクター大田房子さんと、アルコールインターロックの普及に取り組み、東海電子株式会社代表取締役の杉本哲也さんが講演。お二人の対談も多くの課題に示唆を与えました。

依存症当事者と、その家族に真心を込めて寄り添い続けて来た大田さんと、テクノロジーの力で飲酒運転を予防しようとする杉本社長との対談は、飲酒運転ゼロを希求する沖縄県に、希望の光を灯してくれました。

愛する三人の子たちが、その命をかけて私に残してくれたのは、「生かされている」という、いちばん大切な「命のメッセージ」でした。私は、被害者として、大切な家族を失った母親として強く訴えかけます——飲酒運転は、お酒を飲んだドライパーが、自ら選んで犯している重大な罪です。こんなことで尊い命が奪われては、絶対にいけない！

私たちは「生かされている」——このいちばん大切なことを忘れた時、飲酒運転の悲劇は起こってしまう。飲酒運転のない世の中で幸せに生き続けてほしい——皆さんの人生が安全に守られますように、私はずっと祈り続けています。

【海の中道大橋・飲酒運転事故】  
2006年8月25日、酒を飲んだ市職員(当時22歳)が運転する車が追突されて、博多湾に転落。被害者の車に同乗していた3児が死亡した交通事故。

依存症リカバリーサークルの仲田さんご自身も、アルコール依存症当事者としての経験を、切々と語ってくださいました。

「何をするにも、お酒に頼らなければならぬ状態でした。そんな生きづらさを抱えながら二十二年間お酒を飲み続けましたが、遂に、この生きづらさを、お酒でごまかすことが出来なくなってきた——命を断つことさえ、考えるようになったんです。

でも、専門医と繋がる事が出来たことは、いちばんの救いでしたね。自助グループとの出会いも、欠かすことのできない経験でした。

依存症当事者にとって大切なのは、〈新しい出会い〉です。当事者を支える立場として私も今、新しい人と繋げていくことに注力していて、今回のような研修こそ、大変重要だと言えます。

新しい出会いは、支える側のエンジンにもなっています。支えているようできて、私のほうこそ実は、支えられているんだと思います」

二十年前の八月二十五日、私たち家族は、我が家の三人の子どもたちと一緒に、志賀島へ昆虫採集に出かけました。

車で自宅に帰る途中、海の中道大橋を走行していると、突然「ドーン！」という大きな音と共に、激しい衝撃を受け、その直後、車の中に大量の水が入って来ました。

あまりに一瞬のことで状況がつかめないまま、割れたフロントガラスから車の外に出た私は、ようやく事の次第に気づきました。橋の上から海へと落ちたのです。

## 私たちは「生かされている」 どうか、忘れないで。

大上 かおりさん



三人の幼い子たちが経験した苦しみを、皆さんは想像できますか？

私と同じように、言葉では言い表すことのできない悲しみを背負いながら懸命に生きている人たちが、実はこの世の中には、たくさんいます。

その苦しみや悲しみの原因は「飲酒運転」です。

あの日、私は大切な三人の子たちと離ればなれになりました。「どうして、私は助かったんだろう？」私の心の中は、重苦しい罪悪感で、いっぱいです。

でも、私はこの二十年間、自分が「生かされている」ことの意味を、自身に問い続けています。

私たちの「命」というのは、永い間、たくさんの人たちの命が繋がって、現在、ここに存在しています。だから私たちは、たくさん命のおかげで今、ここに「生かされている」のです。たくさんの人たちの優しさや愛情に「生かされている」——このことを忘れてはいけません。

愛する三人の子たちが、その命をかけて私に残してくれたのは、「生かされている」という、いちばん大切な「命のメッセージ」でした。私は、被害者として、大切な家族を失った母親として強く訴えかけます——飲酒運転は、お酒を飲んだドライパーが、自ら選んで犯している重大な罪です。こんなことで尊い命が奪われては、絶対にいけない！

私たちは「生かされている」——このいちばん大切なことを忘れた時、飲酒運転の悲劇は起こってしまう。飲酒運転のない世の中で幸せに生き続けてほしい——皆さんの人生が安全に守られますように、私はずっと祈り続けています。

【海の中道大橋・飲酒運転事故】  
2006年8月25日、酒を飲んだ市職員(当時22歳)が運転する車が追突されて、博多湾に転落。被害者の車に同乗していた3児が死亡した交通事故。

依存症リカバリーサークルの仲田さんご自身も、アルコール依存症当事者としての経験を、切々と語ってくださいました。

「何をするにも、お酒に頼らなければならぬ状態でした。そんな生きづらさを抱えながら二十二年間お酒を飲み続けましたが、遂に、この生きづらさを、お酒でごまかすことが出来なくなってきた——命を断つことさえ、考えるようになったんです。

でも、専門医と繋がる事が出来たことは、いちばんの救いでしたね。自助グループとの出会いも、欠かすことのできない経験でした。

依存症当事者にとって大切なのは、〈新しい出会い〉です。当事者を支える立場として私も今、新しい人と繋げていくことに注力していて、今回のような研修こそ、大変重要だと言えます。

新しい出会いは、支える側のエンジンにもなっています。支えているようできて、私のほうこそ実は、支えられているんだと思います」

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

(順不同)

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

(順不同)

## 福岡県からのお知らせ

「福岡県飲酒運転撲滅運動の推進に関する条例」により、全ての県民は、車両の飲酒運転を見た場合等は、**警察官に通報しなければなりません。**

**皆さんの通報が、飲酒運転による悲惨な事故の未然防止につながります。**



マナッくん

※実際に通報する際は、断片的な情報でも構いません。警察官から聞かれた内容に落ちていて答えてください。通報した方の氏名等を相手に伝えることは絶対にありません。

令和7年10月末現在  
飲酒運転  
通報件数 **2,047件**  
うち検挙に  
至った数 **211件**

県ホームページ  
通報訓練  
マニュアル(チラシ)



県ホームページ  
通報訓練  
マニュアル(動画)



### 実際に通報された方の体験談



ある日の深夜の出来事でした。コインパーキングで1人の男性が料金の精算をしていましたが、お札の挿入に手間取っている様子でした。  
そこで、私が近づいたところ、その男性は明らかに顔が赤く、酒の臭いをさせていました。私は、男性に「お酒を飲んでいるでしょう。飲酒運転をしてはいけません」と強い調子で言うと「代行で帰る」と言ったので、代わりにお札を挿入してあげました。私も自分の精算が終わり、車に乗り込んで前を見ると、男性が車に乗ってそのまま走り出してしまいました。  
私は、自分が手伝ったことで、誰かを死亡させたりしたらどうしようと思い、110番通報しました。警察官にナンバーや車種、進行方向などを伝えながら後を追ったところ、目の前で追突事故を起こして止まりました。しばらくしてパトカーが到着し、そのまま連れて行きました。後で飲酒運転で逮捕されたと聞かされました。  
飲酒運転の通報は、今回が初めての経験でした。もし通報していなかったら、誰かがはねられたかもしれない。それを防ぐことができてよかったと、本当に思います。

### 令和8年4月1日より「自転車の交通反則通告制度(青切符)」が導入！

令和8年4月1日より、16歳以上の者による自転車の一定の交通違反に対して「交通反則通告制度(青切符)」が導入されます。反則金額は原付バイクと同等です。酒気帯び運転等の悪質な違反については、従来どおり、刑事処分の対象となります。自転車は、道路交通法では軽車両に位置付けられており、「車のなかま」です。道路を通行するときは、「車」として、交通ルールを遵守するとともに交通マナーを実践するなど安全運転を心掛けましょう。



県ホームページ  
自転車の交通反則通告制度

※お酒を提供する飲食店や宴会の主催者等は、飲酒する方の運転を防ぐため、引き続き、事前の「車両利用(自転車含む)の有無」や「帰宅方法」の確認などの措置を講じて下さい。

お問い合わせ  
福岡県 人づくり・県民生活部 生活安全課 (交通事故をなくす福岡県民運動本部)  
☎092-643-3167 Eメール anzen@pref.fukuoka.lg.jp 福岡県飲酒運転撲滅 検索



**飲酒運転を見かけたら、必ず110番通報をお願いします! 皆さんの通報が大切な人の命を救います。**

## チャリティゴルフ コンペ開催

株式会社 G-CROSS  
Gラビット運転代行



した寄付金を、山本理事長に贈呈させていたでいます。

福岡最大級の保有台数を誇る運転代行会社・株式会社Gクロス(Gラビット運転代行)は、NPO法人はあとスペースの活動に共感し、飲酒運転撲滅運動を展開しています。

十三回目となるゴルフコンペは昨年十月八日に開催され、二五六名の方々にご参加いただきました。



このチャリティゴルフは、福岡の老舗運行代行会社「チェリー運行代行」が、交通遺児のために開催していました。同業者として、先人のへの敬意と共に、その精神を受け継ぎ、悲惨な事故を起こさせないため、毎年開催しています。参加していただいた方からは、「飲酒運転撲滅のために、ゴルフで寄付することができると、是非協力したい」との声をいただき、たくさんの方々が、個人様にご協賛をいただき、活動を継続しています。

## 飲酒運転“ゼロ”のために

### ZEROグランプリ

飲酒運転撲滅 標語・  
ポスターコンクール

### 審査結果発表

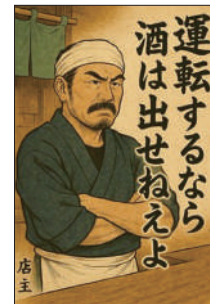
福岡県警察と一般財団法人福岡県交通安全協会は昨年、飲食店利用客の飲酒運転防止とハンドルキーパー運動の推進に関する標語およびポスターを「ZEROグランプリ」と称して募集しました。優秀作品を用いたポスター等を、飲食店や各種キャンペーンで活用する

ことで、飲食店利用客の飲酒運転防止と飲酒運転撲滅への気運高揚を図るものです。海の中大橋での飲酒運転事故から二十年を目前にした一昨年、同じ場所飲酒運転のドライバーを検挙。事故の風化を危惧するとともに、最近では自転車の飲酒運転

「飲酒事故  
いつかではなく  
いまゼロに」

検挙数も増加していることを受け、飲酒運転ゼロへの気運をさらに一重、高めていくことを目的としました。多数の応募作品の中から一次審査を通過した標語およびポスターそれぞれ十五点を、七団体による審査委員が、厳正に審査し、最優秀賞(グランプリ)と、上位優秀賞を決定、昨年十二月に表彰式を行いました。標語の最優秀作品は

ポスターの最優秀作品は



ポスター：グランプリ作品

は、強面の店主がお客様に対し、「運転するなら酒は出せねえよ」と凄むイラストが印象的なデザイン案が選ばれました。



## はあとNEWS

TOMOsをご覧ください、ありがとうございます。

11月30日、「かなこちゃん ちかこちゃんをしのぶ会2025」に参加しました。主催者の井上保孝さん郁美さんご夫妻は、1999年11月に東名高速道路で当時3才のかなこちゃん、1才のちかこちゃんを飲酒運転事故により亡くされています。後に、この事故がきっかけとなり、2001年に刑法第208条の2として「危険運転致死傷罪」が新設されました。2011年、我が家の長男が飲酒運転の車により命を落とした際、井上ご夫妻から励ましのご連絡を頂き、本日に至るまで被害者遺族という繋がりを通して交流を深めてきました。はあとスペースの活動にも深い理解を示してくださり、ご寄付を賜りました。



人と未来を、息吹で紡ぐ。



## 東海電子株式会社

飲酒運転ゼロを世界へ

アルコール検知器で安全な交通社会を実現

## 株式会社野村運送

いつも笑顔でお客様に満足と喜びをお届けします。  
トールウェイサービス株式会社  
Tollway Service

## 西部電気工業

(順不同)